発達性の問題行動に関する研究

——1歳6ケ月児健診における——

研究第7部　高橋種昭
推進本部　小山　修

I はじめに

1歳6ケ月児健診の目的の一つに，親に対する育児指導の徹底ということがあげられている。1歳6ケ月児は乳児から幼児へ子どもが移行する時期にあり，いろいろな意味でその時期は画期的な時期ともいえる。知的発達にしても，性格形成にしても，社会性の発達にしても，その基礎は乳幼児期につくられるものであり，特に1歳6ケ月の頃は重要な時期といえる。何故なら，ことばが芽生え，人や物とのかかわりもいよいよ本格化し，認知能力や記憶能力も乳児期に比べると格段の進歩を示すのがこの時期だからである。こうした時に，親が誤った対応の仕方をしたとしたら，せっかく順調に伸びるべき芽を，その芽生えの時期に全部刈りとってしまうことになるわけである。

しかし，実際に1歳6ケ月児に対する母親の育児態度をみると，かなり多くの誤りがみられ，そのために母子共々不適応状態に陥っているケースが少なくないのが実状である。中でも，多くの母親に扱いを誤らせているのが，いわゆる発達性の問題行動である。それは正常の中の問題行動といってもよいものである。発達のある段階において一過性的にみられるこうした問題行動は，本人にとっては何の問題もなくとも，周囲の大人達，特に母親にとっては一大事にもなりかねないのである。

そこで次に，1歳6ケ月児にみられるこうした発達性の問題行動について，われわれが東京，横浜，千葉，新潟，香川の5都県において，保健婦と母親を対象にして実施した調査の結果から，その発生の実態，親の対応の仕方，保健婦の指導方法などについて報告する。

今回の調査は，昭和53年12月～1月にかけて質問紙法により，約150名の保健婦と400名の母親を対象にして実施したものである。

II 1歳6ケ月児にみられる発達性の問題行動

まず，1歳6ケ月児の健診の場で，どのような発達性の問題行動がみられるかについてみてみよう。

第1表は地域の保健婦を対象にして，実際に健診の場で多くみられる問題についてきいた結果である。多い順にあげると，指しゃぶり（67.1%），哺乳瓶の使用（46.6%），ことばの遅れ（45.2%），排泄のしつけの問題（24.0%），夜泣き（22.6%），かんしゃく（21.2%），小食（17.8%），我が強い（17.1%），乱暴（17.1%），多動（15.8%），人見知り（14.4%），遊び喰い（13.7%）などであり，指しゃぶりが中でも圧倒的に多いのが目につく。

○「指しゃぶり」が多いことは当然予想されたが，この場合，そのことを問題とするかどうかということは常に意見の分れるところである。しかし，母親の多くがそのものを非常に問題視していることは事実であり，周囲に不安をもたせるという意味からすれば，そのものを発達性の問題行動とすることには問題はないはずである。

○「哺乳瓶の使用」についても，半数近いものが発達性の問題行動としてあげているわけであるが，1歳6ケ月の段階で哺乳瓶を使用するということは，指しゃぶりの場合と同様に，いずれは止むとしても親にしてみれば心配の種となるものである。

○かなり多くのものがあげている「ことばの遅れ」については，それを単純性の言語遅滞とすれば発達性の問題行動に入れてよいが，健診の場でのことばの遅れの中には知能遅滞も当然含まれているので，今回の（45.2%）という数字をそのまま他のものと同じように発達性のものと考えるのは問題である。

○「排泄のしつけの問題」は，まだこの時期では教えないのが当然であるが，横浜市のような大都市では，そのものが，かなり多く問題になっている。中には予告しないというようなものでなく，便所や便器を嫌うとか，妙な場所でするというような問題もみられる。いずれにしてもようやく排泄のしつけが始められたばかりの段階で，もうこのように多くの場で，排泄のことが問題としてあげられていることには問題があるといえよう。

○「夜泣き」については，乳児健診の場では非常に多く

第1表　1歳6ヶ月児にみられる発達性の問題行動

MA

項目 ＼ 地域 / 数	横浜市（52）		千葉県（47）		新潟県（47）		計　（146）	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
指しゃぶり	39	75.0	23	48.9	36	76.6	98	67.1
哺乳瓶の使用	21	40.4	19	40.4	28	59.6	68	46.6
ことばの遅れ	31	59.6	17	36.2	18	38.3	66	46.6
夜泣き	25	48.1	8	17.0	0	0	33	22.6
歩行のおくれ	7	13.5	4	8.9	7	14.9	18	12.3
多動（落着きがない）	11	21.2	6	12.8	6	12.8	23	15.8
排泄のしつけの問題	17	32.7	13	27.7	5	10.6	35	24.0
人見知り	8	15.4	12	25.5	1	2.1	21	14.4
かんしゃく	11	21.2	13	27.7	7	14.7	31	21.2
乱暴，攻撃的行動	2	3.8	8	17.0	15	31.9	25	17.1
食事の問題								
小食	8	15.4	7	14.9	11	23.4	26	17.8
むら食い	3	5.8	3	6.4	9	19.1	15	10.3
遊び食い	10	19.2	6	12.8	4	8.5	20	13.7
偏食	3	5.8	3	6.4	3	6.4	9	6.2
間食，不規則	0	0	0	0	4	8.5	4	2.7
自分で食べない	1	1.9	0	0	1	2.1	2	1.4
断乳できない	4	7.7	0	0	2	4.3	6	4.1
我が強い，独占欲	8	15.4	15	31.9	2	4.3	25	17.1
過度の甘え	2	3.8	2	4.3	2	4.3	6	4.1

問題になるが，1歳6ヶ月の段階になれば少なくなっていると考えられていたが，まだ，かなり多く，問題となっている。しかし，この夜泣きを問題にするものは横浜市に集中して多くみられ，新潟の場合は1ケースもみられない。つまり大都市と違って農村部では殆んどこの時期の夜泣きは問題となっていないのである。

○次に「かんしゃく」をあげるものが多いが，これは「我が強い」，「乱暴」などとも重複する部分が多い問題であり，それらのものと一緒に考えてよかろう。怒りの爆発的な表現であるこのかんしゃくという行動も，幼児後期になるとはるかに少なくなるが，1歳6ヶ月児の時期は，自我の芽生えと共に，自己の要求をはっきり主張し出す時期であり，ある意味で，それは子どもの精神発達が順調にいっている指標ともなるものである。

○「食事量が少ない」，「遊び喰い」，「むら喰い」なども常に多くみられるが，こうした食事の問題は，1歳6ヶ月児の段階では，食事に対するしつけも徹底されておらず，食事と遊びとが分化していないためにおこる問題の一部とも考えてよいもので，食事量が少ないという子どもの場合も，実際によくきいてみれば食事の量としては充分のケースが殆んどである。3度の食事以外に間食をする機会も多いし，牛乳のような飲物を多量にとっているものもいるが，親にしてみれば食事の時に食べないということが心配になるわけである。この食事に関した問題は大都市と農村とに差はなく，どこの地域でも多くみられるものである。

○「人見知り」もかなりの数がみられるが，この人見知りも1歳6ヶ月児が，見知らぬ人間を怖がることは当然であり，かんしゃくと同じように考えてよい問題行動といえる。

第2表　母親の考える問題行動　　MA

答＼地域	板橋 50		練馬 57		千葉 96		香川100		新潟(農)46		新潟(都)50		計 369	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
イ 指をいつもしゃぶる	7	14.0	15	26.3	17	17.7	30	30.0	20	43.5	12	24.0	101	25.3
ロ 人をすぐに叩いたりする	5	10.0	13	22.8	8	8.3	16	16.0	9	19.6	4	8.0	55	13.8
ハ 人見知りをする	3	6.0	4	7.0	9	9.4	7	7.0	4	8.7	6	12.0	33	8.3
ニ 犬や猫をこわがる	1	2.0	4	7.0	4	4.2	3	3.0	3	6.5	6	12.0	21	5.8
ホ ひとり寝をしない	5	10.0	7	12.3	13	13.5	16	16.0	8	17.4	7	14.0	56	14.0
ヘ 食事中遊んでさっさと食べない	7	14.0	8	14.0	14	14.6	18	18.0	5	10.9	4	8.0	56	14.0
ト 手づかみで食べる	2	4.0	3	5.3	15	15.6	15	15.0	6	13.0	3	6.0	56	14.0
チ スプーンが使えない	4	8.0	10	17.5	8	8.3	11	11.0	5	10.9	0	0	38	9.5
リ 排尿便を教えない	5	10.0	3	5.3	24	25.0	23	23.0	5	10.9	4	6.0	63	15.8
ヌ 夜泣きをする	8	16.0	12	21.1	15	15.6	19	19.0	11	23.9	10	20.0	75	18.8
ル すぐに甘えて泣く	4	8.0	6	10.5	6	6.3	7	7.0	3	6.5	5	10.0	31	7.8
ヲ かんしゃくをいつもおこす	7	14.0	11	19.3	13	13.5	17	17.0	11	23.9	8	16.0	67	16.8
ワ 大人の後ばかり追う	4	8.0	6	10.5	6	6.3	10	10.0	2	4.3	5	10.0	33	8.3
カ 母親から離れられない	9	18.0	6	10.5	13	13.5	12	12.0	6	13.0	6	12.0	52	13.0
ヨ ひとり遊びばかりして人間に関心を示さない	19	38.0	23	40.4	16	16.7	27	27.0	10	21.7	13	26.0	108	27.1
タ ひとりで歩けない	26	52.0	40	70.2	34	35.9	37	37.0	30	65.2	32	64.0	199	49.9
レ 一語もしゃべれない	23	46.0	38	66.7	31	32.3	39	39.0	20	56.5	22	44.0	179	44.9
ソ 一語か二語程度しかしゃべれない	2	4.0	7	12.3	13	13.5	6	6.0	3	6.5	1	2.0	32	8.0
ツ ダメ，イケマセンなどことばの禁止や制限がわからない	10	22.0	24	42.1	15	15.6	18	18.0	10	21.7	12	24.0	89	22.3
ネ 絵本に興味を示さない	12	24.0	22	38.6	7	7.3	14	14.0	8	17.4	10	20.0	73	18.3
ナ なぐり描きができない	11	22.0	15	26.3	8	8.3	15	15.0	2	4.3	4	8.0	55	13.8
ラ 積木が二つ，三つも積めない	6	12.0	12	21.1	10	10.4	9	9.0	0	0	2	4.0	39	9.8
ム すぐに物をなげつける	6	12.0	9	15.8	9	9.4	14	14.0	9	19.6	5	10.0	52	13.0
ウ 風呂をいやがる	5	10.0	5	8.8	1	1.0	7	7.0	3	6.5	1	2.0	22	5.5
ヰ 哺乳瓶で乳を飲む	13	26.0	24	42.1	31	32.3	34	34.0	12	26.1	13	26.0	127	31.8
ノ 寝る時に指や布をしゃぶる	5	10.0	7	12.3	11	11.5	17	17.0	6	13.0	3	6.0	49	12.3
オ ひとりでどっかへ行ってしまう	3	6.0	6	10.5	4	4.2	6	6.0	9	19.6	5	10.0	33	8.3
ク 階段をひとりで昇れない	11	22.0	14	24.6	9	9.4	14	14.0	5	10.9	3	6.0	56	14.0

III　母親の考える問題行動

では次に，母親達はこの時期にみられる子どもの問題行動というものをどのように見ているかについてみてみよう。第2表は東京，千葉，香川，新潟（農村部，都市部）の母親に，1歳6ヶ月児として問題にしなければならぬ行動についてきいたものである。この中には発達性の問題行動も多く含まれているが，当然問題としなけれ

ばならぬ問題も含まれている。例えば，知的発達に関した項目としては，一語もしゃべれない，絵本に興味を示さない，ことばでの命令や禁止を理解しないなどの項目があるし，社会性に関した項目としては，人間に関心を示さないという項目がある。その他，運動能力に関したものでは，ひとりで歩けない，積木が2つ3つ積めないなどの全身運動と微細運動に関した項目がそれに当るわけである。

母親の答えた結果をみると，大体子どもの行動に対して正しく理解しているように思えるが，ひとり歩きができないものや一語もしゃべれないものを問題とするものが半数に充たないのは，やや意外ともいえる。1歳6ケ月児の段階でこうしたことができない子どもは当然問題にしなくてはならぬわけであり，母親がそのことを問題にしないとしたら，それこそ問題である。

同じようなことが，ひとり遊びばかりしていて人間に関心を示さない，という項目の場合も，僅か30%に足らぬ数の母親しかそれを問題としていないということは，これまた子どもの社会性についての理解の足らなさを示しているといえる。この場合，東京地区の場合は，40%前後の母親が問題としており，千葉，新潟の農村部の母親に問題としていないものが多い。

指をいつもしゃぶることには，新潟の農村部の場合には，半数近い母親がそれを問題としているが，他の地域では新潟の半数程度の母親しか問題としておらず，この場合も地域差が目立つ。

人見知りするということも，保健婦のあげた問題行動の中ではかなり多かったが，そのものを問題とする母親は比較的少なく，10%に充たない。犬や猫をこわがることも殆んどの母親は問題にしていない。反対に，人をすぐに叩いたり，すぐに物をなげつけたり，かんしゃくをおこすというような攻撃的な行動に対しては，やや多くの母親がそれを問題にしている。

また，保健婦に対する質問で多く問題になった食事に関した問題では，遊び喰いや手づかみで食べることが一部の母親によって問題とされているが，その数は予想していたより少なく10%前後の数である。同じ食事に関した問題で，哺乳瓶で乳を飲むという行動は，それより多く，約30%の母親によって問題にされている。

その他では，母親から離れられないとか，すぐに甘えて泣くというような甘えの問題については，それを当然とするものが多く，問題とする母親はごく僅かである。

以上の結果からみると，母親達の多くは当初予想していたより子どもの発達性の問題行動に対してかなり正しく理解していることがわかる。しかし，ひとり歩きや，ことばを一語も発しない子どもを問題視しない母親がかなり多く存在することは，注意に値しよう。

Ⅳ　母親の育児態度

そこで，次に母親がこうした発達性の問題行動に対して，どのような態度で臨んでいるかということを，保健婦の印象と，母親自身に聞いた結果からみてみよう。

まず，全般的な母親の印象についてみると，問題に対しては第3表に示す如く，気にはするが特別なことはしないものが過半数を占め，気にしていろいろな方法で直そうとするというものが約20%である。放任的で気にしないというものは1割に充たない。

母親の主体性については，すぐに医師や周囲の人間に助けを求めるものが最も多く，横浜市の場合には過半数を占めている。つまり他人依存型の母親が多いということである。（第4表）自分で考え，自分で問題解決に努力するという母親は殆んどいない。こうした傾向は最近常にいわれていることであり，母親の自主性というか，努力が非常に不足していることを示している。

次に子どもの発育や発達についての知識の有無についてみると（第5表）一応の知識はもっているというものが殆んどを占め，無知というものがごく僅かみられる程度である。非常にくわしく知っているという育児知識過剰の母親がもっと多いのではないかと考えられたが，この少い数字はいささか意外であった。

第3表　(イ)　問題に対する態度

答＼地域	横浜市（52）		千葉県（47）		新潟県（47）		計　（146）	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a　放任的であまり気にしない	3	5.8	2	4.3	8	17.0	13	8.9
b　気にはするが特別なことはしない	37	71.2	36	76.6	27	57.4	100	68.5
c　気にしていろいろな方法で直そうとする	11	21.2	8	17.0	9	19.1	28	19.2
NA	1	1.9	1	2.1	3	6.4	5	3.4

第4表 (ロ) 母親の主体性について

答＼地域	横浜市 (52) 実数	横浜市 (52) %	千葉県 (47) 実数	千葉県 (47) %	新潟県 (47) 実数	新潟県 (47) %	計 (146) 実数	計 (146) %
a すぐに医師や周囲の人に助けを求める	32	61.5	17	36.2	21	44.7	70	47.9
b 自分で考え，わからない時には他人の力をかりる	17	32.7	27	57.4	23	48.9	67	45.9
c 自分で考え，自分で問題の解決をはかる	0	0	1	2.1	1	2.1	2	1.4
NA	3	5.8	2	4.3	2	4.3	7	4.8

第5表 (ハ) 子どもの発育や発達に関する知識の有無について

答＼地域	横浜市 (52) 実数	横浜市 (52) %	千葉県 (47) 実数	千葉県 (47) %	新潟県 (47) 実数	新潟県 (47) %	計 (146) 実数	計 (146) %
a 子どもについて全く無知	0	0	3	6.4	3	6.4	9	4.1
b 一応の知識はもっている	51	98.1	41	87.2	44	93.6	136	93.2
c 非常にくわしく知っている	0	0	3	6.4	0	0	3	2.1
NA	1	1.9	0	0	0	0	1	0.7

V 母親の問題行動への対処の仕方

第6表から第11表は，問題行動に対する母親の対処の仕方についてきいたものである。質問は，もし自分の子どもがそうした状態になったとしたら，どのような態度で臨むかという形で行った。

① 指しゃぶりについて

指しゃぶりについて母親はどのような態度をとるかというと，他に関心を向けさせて止めさせるというものが圧倒的にどの地域でも多くみられ，次いで放っておくが10%前後みられる。無理に止めさせるというものは数%みられるだけで，皆無の地域もあるほど少ない。医師に相談するというものも数例みられるだけである。この結果からみると，指しゃぶりというものに対する正しい対処の仕方を殆んどの母親が知っていることになる。

② 人見知りのひどい場合

人見知りのひどい場合は，他の子どもと遊ぶ機会をもたせるというものが半数以上を占めて多く，積極的に他人の前に出すというものも20%前後みられる。大きくなれば直るから放っておくというものは僅か5%に過ぎず，母親の多くは，この時期の人見知りに対しては何等かの手をうたねばならぬと考えているとみてよかろう。しかし，1歳6ヶ月児の段階でこうした人見知りに対して，他の子どもと遊ばせたり，積極的に他人の前に出すことが必要かといえば，その必要はないわけであり，この問題に関しては，母親がいささか気をつかい過ぎて

第6表 指しゃぶりをいつもする場合

答＼地域	板橋 50 実数	板橋 50 %	練馬 57 実数	練馬 57 %	千葉 96 実数	千葉 96 %	香川 100 実数	香川 100 %	新潟(農)46 実数	新潟(農)46 %	新潟(都)55 実数	新潟(都)55 %	計 399 実数	計 399 %
a 放っておく	4	8.0	4	7.0	14	14.6	13	13.0	10	21.7	2	4.0	47	11.8
b 無理にでもやめさせる	0	0	5	8.8	4	4.2	4	4.0	4	8.7	3	6.0	20	5.0
c 他に関心を向け，やめさせる	38	76.0	42	73.7	60	62.5	75	75.0	30	65.2	41	82.0	286	71.7
d 医師に相談する	0	0	0	0	1	1.0	0	0	1	2.2	0	0	2	0.5
e その他	0	0	1	1.8	3	3.1	1	1.0	1	2.2	2	4.0	8	2.0
NA	8	16.0	5	8.8	18	18.8	7	7.0	0	0.0	2	4.0	36	9.0

第7表　人見知りがひどい場合

答＼地域	板橋 50		練馬 57		千葉 96		香川 100		新潟(農)49		新潟(都)50		計 399	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a 積極的に他人の前に出す	7	14.0	9	15.8	16	16.7	24	24.0	5	10.9	13	26.0	74	18.5
b 大きくなれば直るから放っておく	1	2.0	5	8.8	7	7.3	3	3.0	4	8.7	2	4.0	22	5.5
c 過保護にならぬようにする	5	10.0	1	1.8	6	6.3	7	7.0	1	2.2	5	10.0	25	6.3
d 他の子どもと遊ぶ機会をもたせる	28	56.0	38	66.7	55	57.3	55	55.0	35	76.1	29	58.0	240	60.2
e そ の 他	1	2.0	1	1.8	0	0	0	0	1	2.2	0	0	3	0.8
NA	8	16.0	3	5.3	12	12.5	11	11.0	0	0.0	1	2.0	35	8.7

第8表　かんしゃくをいつもおこす場合

答＼地域	板橋 50		練馬 57		千葉 96		香川 100		新潟(農)40		新潟(都)50		計 399	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a 厳しく叱る	0	0	2	3.5	3	3.1	4	4.0	1	2.2	1	2.0	11	2.8
b 不安や不満をもたせないようにやさしくしてやる	31	62.0	37	64.9	55	57.3	62	62.0	30	65.2	35	70.0	250	62.7
c 無視して放っておく	8	16.0	8	14.0	21	21.9	20	20.0	10	21.7	11	22.0	78	19.5
d そ の 他	2	4.0	5	8.8	3	3.1	1	1.0	3	6.5	3	6.0	17	4.3
NA	9	18.0	5	8.8	14	14.6	13	13.0	2	4.3	0	0.0	43	10.8

第9表　夜泣きを毎晩する場合

答＼地域	板橋 50		練馬 57		千葉 96		香川 100		新潟(農)46		新潟(都)50		計 399	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a 泣きやむまで相手をしてやる	10	20.0	20	35.1	39	40.6	15	15.0	15	32.6	19	38.0	118	29.6
b そのままそっとしておく	18	36.6	12	21.1	23	24.0	39	39.0	11	23.9	14	28.0	117	29.3
c 不安をもたせないようにやさしくしてやる	6	12.0	12	21.1	10	10.4	21	21.0	9	19.6	9	18.0	67	16.8
d そ の 他	8	16.0	9	15.8	7	9.3	8	8.0	7	15.2	4	8.0	43	10.8
NA	8	19.0	4	9.0	17	17.7	17	17.0	4	8.7	4	8.0	54	13.5

第10表　すぐに泣く場合

答＼地域	板橋 50		練馬 57		千葉 96		香川 100		新潟(農)46		新潟(都)50		計 399	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a 甘えなのだから厳しく叱る	2	4.0	7	12.3	5	5.2	9	9.0	1	2.2	3	6.0	27	6.8
b 相手にならぬようにする	17	34.0	21	36.8	33	34.4	33	33.0	11	23.9	16	32.0	131	32.8
c 不安をもたせないようにやさしくしてやる	20	40.0	21	36.8	39	40.6	40	40.0	30	65.2	25	50.0	175	43.9
d そ の 他	3	6.0	4	7.0	8	8.3	5	5.0	1	2.2	2	4.0	23	5.8
NA	8	16.0	4	7.0	11	11.5	13	13.0	3	6.5	4	8.0	43	10.8

第11表　遊んでいてさっさとごはんを食べない場合

答＼地域	板橋 50		練馬 57		千葉 96		香川 100		新潟(農)46		新潟(都)50		計 399	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a すぐにさげてしまう	2	4.0	0	0	1	1.0	1	1.0	1	2.2	2	4.0	7	1.8
b 全部食べるまで待っててやる	3	6.0	4	7.0	13	13.5	11	11.0	12	26.1	5	10.0	48	12.0
c 少し待って食べないならばさげてしまう	39	78.0	46	80.7	72	75.0	76	76.0	32	69.6	41	82.0	306	76.7
d その他	1	2.0	3	5.3	4	4.2	3	3.0	1	2.2	1	2.0	13	3.3
NA	5	10.0	4	7.0	6	6.2	9	9.0	0	0.0	1	2.0	25	6.3

いるといえる。

③　かんしゃくをおこす場合

かんしゃくに対しては，不安や不満をもたせないようにやさしくしてやるという母親が半数をこえ，次いで無視して放っておくが約20%であり，厳しく叱るのは僅か10ケースに過ぎない。1歳6ヶ月児のかんしゃくの中には，甘やかされた環境の中に生活していたために激しくなっているものもあることを考えると，こうした母親達の扱いは，いささか過保護に過ぎる感じがする。これは母親達がかんしゃく即，不満というように結びつけ，欲求不満に陥ることを恐れての結果と考えられる。

④　夜泣きを毎晩する場合

この場合には，答えが分れているのが特徴であり，泣き止むまで相手をしてやるという母親と，そのままそっとしておくという母親が約30%ずつと多く，不安をもたせないようにやさしくしてやるという母親も20%近くみられる。その他の中には医師に相談するというようなものもあるが，1歳6ヶ月児が，夜泣きを毎晩するのに対して，泣き止むまで相手をしてやるという扱いもいささか過保護であり，病気などの原因がなければそのままそっとしておく方が適切な扱いといえよう。

⑤　すぐに泣く場合

泣虫の子どもの扱いでは，この場合も相手にならぬようにするというような，ある程度の厳しさをもって臨む親は約30%と，やさしくしてやるのが約40%より少なく，この場合もやさしい母親の存在が目立つが，やさしくすることがすぐ泣く子を育てることになることを考えれば，そうした母親達の態度にも問題があるといえよう。

⑥　遊んでいてさっさと御飯を食べない場合

少し待って食べないならばさげてしまうという母親が過半数を占め，遊び喰いに対してはこうした扱いが定着した感じである。しかし，全部食べるまで待ってやるという甘い母親も新潟の農村部に，かなり多くみられる。

以上の母親に対する質問紙調査の結果からみると，発達性の問題行動に対する母親達の態度なり，扱いは，一応妥当なものとみてよい。しかし，子どもに不安や不満をもたせることには必要以上に気をつかっているようにみえる。要するに，そうした母親は過保護に陥る危険性が非常に大きいわけである。

IV　指導の現状

母親の問題行動に対する態度については以上述べた如くであるが，同じ行動に対して保健婦達はどのような指導を行っているかについてみたのが第12～16表である。

第12表　(イ)　指しゃぶりについては

答＼地域	横浜市 (52)		千葉県 (47)		新潟県 (47)		計 (146)	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a 大きくなったらやめるから気にするな	11	21.6	9	19.4	12	25.5	32	21.9
b 不潔になるからやめさせろ	1	1.9	0	0	0	0	1	0.7
c 欲求不満にならぬよう	8	15.4	13	27.7	8	17.0	29	19.9
d 他に気を向けさせてやめさせるよう	28	53.8	24	51.1	21	44.7	73	50.0
e その他	4	7.7	0	0	6	12.8	10	6.8
NA	0	0	1	2.1	0	0	1	0.7

第13表 (ロ) 人見知りのひどい子については

答＼地域	横浜市 (52)		千葉県 (47)		新潟県 (47)		計 (146)	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a 積極的に他人の前に出せ	15	28.8	11	23.4	7	14.9	33	22.6
b 知らん顔をして取り合わない	1	1.9	3	6.4	1	2.1	5	3.4
c 不安があるためなのだからやさしくする	14	26.9	8	17.0	9	19.4	31	21.2
d 親が焦ってはいけない	16	30.8	17	36.2	23	48.9	56	38.4
e その他	5	9.6	7	14.9	6	12.8	18	12.3
NA	1	1.9	1	2.1	1	2.1	3	2.1

第14表 (ハ) 夜泣きをする子については

答＼地域	横浜市 (52)		千葉県 (47)		新潟県 (47)		計 (146)	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a 泣きやむまで相手になってやるよう	8	15.4	2	4.3	2	4.3	12	8.2
b そのままそっとしておけ	2	3.8	8	17.0	5	10.6	15	10.3
c 医師に診てもらうように	0	0	2	4.3	0	0	2	1.4
d 親が神経質にならないよう	30	57.7	26	55.3	26	55.3	82	59.2
e その他	10	19.2	8	17.0	14	29.8	32	21.9
NA	2	3.8	1	2.1	0	0	3	2.1

第15表 (ニ) すぐに泣く子については

答＼地域	横浜市 (52)		千葉県 (47)		新潟県 (47)		計 (146)	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a 甘えて泣くのだから厳しい態度であたれ	0	0	0	0	0	0	0	0
b 無視して取り合わない	2	3.2	5	10.6	6	12.8	13	8.9
c 不安を取り除くためにやさしく接する	25	48.1	18	38.3	14	29.8	57	39.0
d 親がおろおろしない	21	40.4	21	44.7	20	42.6	62	42.5
e その他	2	3.8	3	6.4	7	14.9	12	8.2
NA	2	3.8	0	0	0	0	2	1.4

① 指しゃぶりについて

1歳6ケ月児の指しゃぶりに対しては，半数の保健婦が他に気を向けさせて止めさせるように指導すると答えている。次いで，大きくなったら止めるから気にするなというものと，欲求不満にならぬように指導するという2つの答えがそれぞれ20%ずつみられる。

この指しゃぶりについては，そのものをごく自然な乳児や幼児にみられる行動とみるものと，不満や不安があるために行われるものとみるものとによって，当然その指導が異ってくるわけである。何れの方法にしろ，止めさせようと指導するものの場合は，そのものを好ましくないとみているわけである。その場合，多くとられるのは，他に関心を向けさせて止めさせる方法なのである。

② 人見知りのひどい子について

人見知りのひどい子については，親に焦るなと指導するケースが最も多い。つまり圧力をかければいよいよひ

第16表 (ホ) 遊び喰いについては

答＼地域	横浜市 (52)		千葉県 (47)		新潟県 (47)		計 (146)	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
a すぐごはんをさげてしまう	0	0	0	0	0	0	0	0
b 手伝って早く食べさせる	3	5.8	1	2.1	4	8.5	8	5.5
c 少し待って食べなければさげてしまう	44	84.6	41	87.2	38	80.9	123	84.2
d 食べるまで待ってやる	1	1.9	1	2.1	1	2.1	3	2.1
e その他	4	7.7	5	10.6	4	8.5	13	8.9
NA	0	0	0	0	0	0	0	0

どくなるぞ，という指導なのであろう。しかし同時に，積極的に他人の前に出せ，というものも母親の場合と同様にかなり多くみられ，横浜市の場合には½のものがそうした指導を行っている。そうした指導は，親に焦るなという指導とはいささかその指導方針を異にする指導であり，問題があるといえる。前述した如くこの時期の人見知りに対して，あまりそのものを早く直そうと努力させることは不必要なはずである。

③ 夜泣きをする子について

夜泣きについては，親が神経質にならぬようにという指導が半数以上を占めて最も多く，次いで，そのままそっとしておけというものが約10%みられる。夜泣きの原因にはいろいろなものがあるわけであるが，親が神経質になっているためにますます悪化させているケースが多いことを考えると，保健婦の人々のこうした指導は適切であるといえる。しかし，約10%のものが泣き止むまで相手になってやれと指導しているのは，下手をすると母親の過保護に拍車をかけることにもなろう。問題はその相手の仕方である。

④ すぐ泣く子について

すぐ泣く，いわゆる泣虫の子に対する指導としては親がおろおろしないように指導するものと，不安を取り除くためにやさしく接してやれというものが約40%ずつみられ，両者で殆んどを占めている。親が子どもの泣く度におろおろしていたのでは，子もどの思うつぼであり泣虫を助長するようなものであるから，おろおろするなという指導は当然正しいわけであり，この場合もあまりそのものを不安と結びつけて，すぐ泣く子にやさしく接しろと指導するのは，いささか問題である。それが御機嫌とりと結びついたらそれこそ泣虫をあおることにもなりかねないであろう。

⑤ 遊び喰いについて

遊びながら御飯を食べる子どもについては，母親の場合と同様，少し待って食べなければさげてしまえ，という指導が殆んどを占め，指導方針としては他のものより，はるかに統一されている感じである。

以上，保健婦の人々に対する質問調査の結果から，子どもの発達性の問題行動についての指導の実態についてみたわけであるが，この場合も一，二の例を除いて現在健診の場では適切な指導が行われているといえる。しかし，人見知りやすぐ泣く子に対する指導の場合にみられるように，子どもの問題行動に対する理解をやや欠いているような例もあり，結果において子どもに迎合することにもなりかねない指導が行われている点については注意が必要である。

Ⅶ おわりに

このように，1歳6ヶ月児健診において発達性の問題行動は，多くの母親から問題として出され，指導を必要としており，親に問題となる行動についての正しい知識を与え，無用な不安を排除し，適切な対応の仕方を指導することは，その問題を一過性のものにとどめ，深刻化させないためにぜひ必要である。

特に最初の子どもの場合など，母親は子どものちょっとした問題を非常に深刻化しがちであり，母子共々不安状態に陥っているケースが多いので，個々の状態や実状に即した細やかな指導がなされねばならない。母親がうろたえたり，焦ったりして子どもに当るようなことがあったら，問題に対する正しい対応はまず不可能である。

保健指導をする側としても，母親のそうした気持をよく理解し，母親の不安を和げることを目標に指導が行われることが望まれる。そして，母親がゆとりある態度で子どもに接することができるようになれば，子どもの発達性の問題行動の殆んどは短時日のうちに消滅してゆくはずである。おわりに今回の調査に快く御協力戴いた各地域の保健婦の方々に厚く御礼を述べたい。